

# 政府が所有する外国産米穀のカビ状異物の確認及びカビ毒の検査結果について

(平成23年1月分)

## 1. カビ毒の検査結果

ロット毎に全てのフレコンからサンプルを採取して、カビ毒を分析<sup>※1</sup>している。当月の結果は次のとおりであり、カビ毒は検出されなかった。

問題があった場合は、そのロット全体を焼却処分とする。

販売用途:【食用】 検査対象数量 10,410トン

カビ毒	分析点数	陰性	陽性
アフラトキシンB <sub>1</sub> <sup>※2</sup>	155点	155点	0点

販売用途:【飼料用】 検査対象数量 18,698トン

カビ毒	分析点数	陰性	陽性
アフラトキシンB <sub>1</sub> <sup>※2</sup>	261点	261点	0点
カビ毒	分析点数	基準値を超える点数	
デオキシニバレノール <sup>※3</sup>	261点	0点	
ゼアラレノン <sup>※3</sup>	261点	0点	

## 2. カビ状異物の発見件数

「カビ状の異物」が発見された場合は、その袋又はフレコンごと焼却処分とする。

包装	件数	数量
1 t フレコン	2件	2トン
30 kg 樹脂袋	6件	2トン
合計	8件	4トン

- 注 ※1: 食用に販売される米穀については、食品衛生法で規制されているアフラトキシンB<sub>1</sub>を分析している。飼料用に販売される米穀については、飼料安全法で規制されているアフラトキシンB<sub>1</sub>、デオキシニバレノール、ゼアラレノン进行分析しているが、アフラトキシンB<sub>1</sub>については、飼料用に販売される米穀についても食品衛生法の規制をクリアしたものを販売することとしている。
- ※2: 食品衛生法における穀類等のアフラトキシンB<sub>1</sub>の規制では、食品衛生法に基づく通知に示す食品中のアフラトキシンの試験法に規定する高速液体クロマトグラフィーによる分析において、アフラトキシンB<sub>1</sub> 0.01 ppm相当濃度の標準液の測定ピークの高さ又は面積を上回る場合を陽性としている。
- ※3: 家畜への影響及び食品となる畜産物への影響の観点から、飼料安全法で配合飼料について3つのカビ毒の基準値を定めており、飼料安全法に基づき定められた検査方法で分析して、基準値以下の結果が得られたものでなければならぬとしている。
- ・飼料用のアフラトキシンB<sub>1</sub>の基準値は0.01ppm
  - ・飼料用のデオキシニバレノールの基準値は1.0ppm
  - ・飼料用のゼアラレノンの基準値は1.0ppm
- ※4: カビ毒検査のロットについては、同一船で輸入され、同一倉庫に保管されている米穀について、販売前1～3日の解袋作業量(上限100トン)を1ロットとしている。
- ※5: カビ状異物の発見件数は、同一船で輸入され、同一倉庫に保管されている米穀について、同月にカビ状異物が発見された場合に1件としている。

問い合わせ先  
総合食料局食糧部食糧貿易課  
代表 03-3502-8111 直通 03-6744-2079  
担当 佐久間、須山(内線4236)